

発掘現場通信

表紙の写真は、遺跡の写真測量にあわせて、ラジコンヘリから南谷の発掘調査地を撮影したものです。ヘリにカメラをつけて上空から写真を撮り、それをもとに図面などをつくります。



昨年度調査した門扉の復元予定地を上空から撮影しました。門・扉の跡、石敷通路がきれいにみえます。

世界遺産へ向けて

平泉寺世界遺産講演会2011のお知らせ

平成18年に始まった平泉寺の世界遺産登録を推進するため、講演会を開催します。今回、講師としてお招きする文化庁の市原調査官は、平泉寺の整備を担当しておられます。また、パリのユネスコ本部で石見銀山等の登録にも関わった経験をお持ちです。全国的な視野から平泉寺の整備の特色、世界的な視野から平泉寺の世界遺産登録についてお話いただきます。

講演の終了後、一乗谷朝倉氏遺跡資料館の吉岡泰英顧問と平泉寺と一乗谷の整備の違いや今後の方向性などを対談していただく予定です。

みなさまのご参加をお待ちしております。

日時：2011年3月6日(日)

場所：勝山市教育会館ホール

講演：市原富士夫氏 文化庁調査官

対談：市原富士夫氏

吉岡 泰英氏 一乗谷朝倉氏遺跡資料館顧問

※入場無料・申し込み不要



④ 昨年度の世界遺産講演会

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 27 (2010年12月号)

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成22年12月24日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話：0779-88-8113(直通)

メール：shisaki@city.katsuyama.lg.jp



特集：平泉寺の発掘調査をふりかえる

平泉寺で発掘調査が始まったのはいつのことでしょうか？早いもので、もう22年も前のこととなります。この間、地区の方々のご理解とご協力のもと、発掘調査を進めていくことができました。その結果、全国的にも注目される多数の僧坊や石垣、石畳道がみつかっています。そして、2008年から始まった総合整備事業では、門・扉の復元やガイダンス施設の建設といった平泉寺の魅力を新しい方法で発信する仕組みづくりを目指しています。今回は、平泉寺の発掘調査の歴史をふりかえてみましょう。



① 発掘調査の進む南谷を空から眺める
(平成22年11月撮影)

平泉寺の発掘調査をふりかえる 1989~1993年

⑦: 1993年 明王院推定地

平泉寺でも指折りの大きさをもつ明王院の推定地を発掘しました。戦国時代頃の建物跡や焼け焦げた陶磁器などがみつかっています。



⑥



⑥: 1992年 地藏院推定地

地藏院は北谷最大の坊院です。本堂とみられる建物や門、塀、建物への石敷通路などが良好な保存状態で見つかりました。平泉寺の坊院の様子を知ることができる貴重な資料となっています。

④: 1992年 観音堂付近

旅館の建てかえに伴う発掘調査では、壺を掘える穴がたくさん見つかりました。染料や油のような液体を貯め、ものづくりや商売を営んでいた可能性があります。



④

①

③

②

⑤



⑤: 1992年 鬼ヶ市

鍛冶を行う際にできるカスがたくさん出てきました。鬼ヶ市の地名が示すように、鍛冶職人のいた市場だったのでしょか。

①: 1989年 南谷典の坊院



③: 1991年 賢聖院推定地北側の石畳道



石を少しずつはすしていくと



きれいに掃除してみると

②: 1990年 賢聖院推定地西側の石畳道



①~③: 1989~91年 南谷ほうじ

平泉寺で行われた、初めての本格的な発掘調査です。南谷の山の中から石垣や石畳道、坊院への入口や井戸、流し場などがみつかりました。この調査をきっかけに平泉寺は、全国的にも注目されるようになりました。多くの坊院があり、そこにたくさんの方が住む都市だったのではないかと。石を最大限に利用した土木技術や大規模な工事を完成させる経済力や労働力をもっていたのではないかと。など発掘調査によって平泉寺の新たな歴史像が明らかにされていったのです。

りっぱな石畳道が出てきた!

平泉寺
白山神社

ぼうじ

たてみち

女神川

賢聖院推定地
(平泉寺境内に由来)